

きらめきアクションと教員間交流の充実

1 きらめきアクションの充実

けやき台中学校と高野小学校、松ヶ丘小学校との連携で行う各交流活動（きらめきアクション）については、昨年度の実績に基づき、さらに効果的かつ小学校間の統一性のある活動内容の充実を意図して実施してきた。

(1) 小中合同あいさつ運動（6月23日，10月20日，2月16日）

各学期1回ずつ，各小学校同日実施を継続した。中学生が通学門だけでなく，小学生の通学路上にも立ってあいさつ運動を行い，安全意識の高揚にも努めた。

(2) 吹奏楽部出前演奏会（高野小 6月11日，松ヶ丘小 9月26日）

吹奏楽部の演奏による一斉合唱（「翼をください」）の他，小学校の要望により，今年度は吹奏楽部生徒による楽器紹介などを取り入れ，児童の関心がより高まった。



けやき台中吹奏楽部による楽器紹介

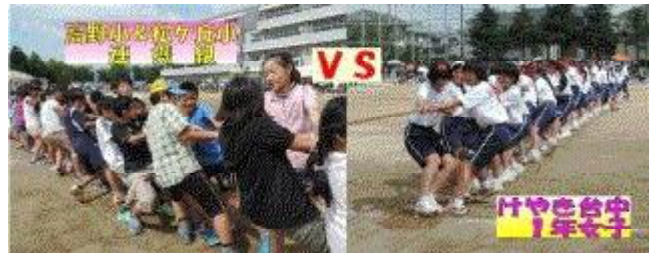
(3) 学びの広場サポートプラン事業への中学生の学習支援

（7月22～25日：4日間）

中学生による学習支援をより積極的に取り入れるようにし，サポーターや教員とともに算数科の個別指導の充実に努めた。中学生も意欲的に支援に当たっていた。

(4) けやき台中体育祭への小学生の参加（9月13日）

両小学校の有志による参加で，中学校1年生女子生徒を相手に「綱引き」を行った。両校合わせて60人以上が参加し，たくさんの保護者や地域の方々の前で小中合同の競技が行われたことは意義あることであった。



けやき台体育祭における綱引き

(5) 部活動見学会・部活動体験

部活動見学 11月1～3日

部活動体験 11月13日 茨城県民の日

昨年度スタートした「部活動体験」は，中学校側の負担軽減と小学校職員の引率の必要性等から，実施日を「県民の日」1日とするとともに，様々な部活動への興味・関心をもたせることをねらいとして，自由参加による「部活動見学会」を3日間設けた。小学生が最も強い関心を寄せる部活動に関する取組は，進学に係る不安を取り除く意味でも有意義であった。



部活動体験の様子

(6) 母校訪問・交流会（11月28日）

高野小学校では，昨年度まで中学1年生と小学6年生とが一緒にボランティア活動を行ってきたが，今年度は松ヶ丘小学校における取組を参考に，全学年全学級に中学1年生複数人が学習サポーターとして入ることにした。各学級ごとに計画された学習活動への直接的な支援を行うことで，小学



生全員と中学生が直接ふれあう機会となった。授業後は、体育館で中学生による学校紹介が実施され、また、座談会形式で6年生とフリーに話し合うことで、中学校生活をより身近に感じることができた。

前項：学習支援の様子 / 学校説明の様子 →



＜活動を振り返って＞

中学校区における交流活動2年目として、昨年度の実績を踏まえた計画協議を行い、実践を重ねてきた結果、より充実した活動が展開されてきた。小学生が、中学生をより身近な存在として感じられたことや、児童の思いなどに寄り添った、中学生による具体的支援の効果など、成果が多く得られた。

2 教員間交流の充実

昨年度から実施してきた「中学校区部会」を、より充実した協議・情報交換ができる場にしていくこと、また、「出前授業」から「相互乗り入れ授業」への展開、さらに、新規導入された「学びのプラン」「家庭学習のてびき」の活用の在り方を学校間で共有することなどについて、一貫教育コーディネーターが中心となって研修を進めてきた。

(1) 相互授業参観・相互乗り入れ授業

学校間の相互授業参観は、各校の計画訪問や管理訪問の機会を活用し、フリー参観の形をとって継続実施してきた。特に、勤務経験のない教員が参観を行うよう意図的に計画したことで、参観した教員の新たな認識の獲得につながった。

これまで単発的に実施してきた「出前授業」を、複数回の合同指導による「乗り入れ授業」として実践した。

松ヶ丘小 6月6日：計画訪問 他2時間

体育科の授業に中学校教員が乗り入れ

高野小 6月30日：計画訪問 他1時間

外国語活動の授業に中学校教員が乗り入れ

けやき台中 11月21日：計画訪問

学級活動の授業に小学校教員が乗り入れ

(担任病気のため実施できず)



高野小における外国語活動の乗り入れ授業

(2) 夏季合同研修会（8月4日）における分科会の充実

研修会分科会の場を活用し、各教育活動の実践や今後の計画に係る教員研修の充実を図った。今年度は、「情報教育」と「家庭学習指導」の部会を新設し、「道德教育」と「生徒指導」を独立した部会とする変更を行った。市の重点領域や「家庭学習のてびき」の活用に係る協議が実施できたことは有意義であった。

(3) 中学校区部会の運営

昨年度までは、各種交流活動の計画・実施に係る打合せを主とする場であった中学校区部会を、コーディネーターを中心に、より多くの教員参加による相互研修の場としていくことを目的として運営した。その結果、「『学習スキル』『生活スキル』を活用した取組」、「道德教育指導計画の内容について」、「体力テストの結果を踏まえた体育の取組」、「情報教育の推進に係る情報交換」、「『学びのプラン』実施アンケートの結果から」といった主題で、各校の研究主任、生徒指導主事、道德主任、体育主任、情報教育担当者等がそれぞれの学校の実態や取組について情報交換したり、各校の実践につながる協議を行ったりすることができた。



中学校区部会の様子

＜活動を振り返って＞

中学校区としての課題や改善策を共有し、自校の取組にそれを反映させていくことは、一貫教育を推進する上で重要であるため、今後も教員間の交流を充実させていきたい。